

才能を開花させる 習い事マニュアル



教材作成者

幼児期の子育てアドバイザー かがりいさ

Copyright(c) 2019 幼児期子育ての教科書 All Rights Reserved

1 / 17

【推奨環境】

このレポート上に書かれているURLはクリックできます。できない場合は最新のAdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://get.adobe.com/jp/reader/>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は株式会社Adventure Lifeに属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

目次

- 1. 習い事はさせた方が良いのか？
- 2. 習い事の始める時期
- 3. 習い事のベストな決め方
- 4. ふざけてしまう時の対応
- 5. やめたいという場合はやめさせるべきか？

1. 習い事はさせた方が良いのか？

習い事はみんなやっているし、何か1つでも
させなければならぬと習い事をさせている方もいます。
でも習い事というのは、させるものではありません。

よく、大人が昔やりたかったけれどできなかったことを
“これを子どもにしてほしい！”という思いから
その習い事をやらせてしまう大人たちもいますが、
習い事というのは、親がやるものではありません。

子どもがやるものです。

なので基本的に習い事は、全て子どもに任せてしましましょう。

親が決めるものでもありませんので、
“させた方が良い”“させなくても良い”ということもありません。
子どもがやりたいと言えればやらせてあげれば

良いですし、やりたくないと言えば、
無理にやらせる必要はありません。



たしかに、習い事をしていれば、その分その活動に対して
慣れているので、園や小学校などでその活動が
あってもスムーズに取り組めるため、
困ったりすることは減るかもかもしれません。

しかし、習い事をしたからといって
他の子よりも優れた人間になる、
習い事をしなかったから他の子よりも劣る
ということはありません。
なので、習い事はどちらでも大丈夫です。

やるかやらないかは、子どもに決めさせてあげるようにしましょう。

2. 習い事の始める時期

習い事というのは、**子どもが「やりたい！」**
と言ったタイミングで始めるのがベストです！

なぜなら、「やりたい」と言っているときというのは、
子どもはそのものに対して一番興味を示していて、
興奮が高まっているからです。

そのような時期に始めることで、より子どもたちの
身についていくのも早いです。

逆に、やりたいと思っていない時期や、
やりたくないと思っている時期に

無理にやらせてしまうということは、

子どもは興味のないものをやるということになります。

興味のないものを嫌々やっても、身についていくのも遅いですし、

嫌なことというのは絶対に身についていきません。

むしろ、そのものがより嫌い、また苦手意識を持ってしまう

ようになることもあります。



早く始めれば早く始めただけ、身につくのも早い！と

思っていて、早めから始めさせる方も多いですが、

これはあながち間違っていないかもしれません。

しかし、子どもの苦手なものはどれだけ早く始めた

ところで、なかなか習得していきません。

逆に、たとえ始めたのが遅くても
好きなことや得意なことであれば、
子どもは習得するのがとても早いです。

なので、早く始めたから良い、悪いではありません。

子どもの気持ちに合わせ、**子どもの“やりたいタイミング”で
始めるようにするのがベスト**です！

3. 習い事のベストな決め方

先ほども話したように、大人の都合などで
習い事をさせてしまう方も多いですが、
子どもがやりたくないのに強制しても、絶対に身につけません。

やりたくないということは、子どもの苦手なことだったり、
興味のないこと、あまり気持ちに乗らないことなのです。

大人も一緒です。

絵を描くことが嫌いだったり苦手なのに、

絵を描かされても上達すると思いますか？



それよりも、周りにいる上手な絵の人と

自分とを比べてしまって

劣等感を感じてしまいますし、

より自分の苦手意識を強めてしまうだけですよ？

子どもも全く同じなんですよ。

苦手なものをして身についていけないどころか、

より苦手意識を強めてしまって、もしかしたら

大きくなっていくうちに好きになれるはずのものだったのに

一度苦手意識を持ってしまうことで、子どもはもうずっと

そのものから避けてしまうようになります。

それってとっても勿体ないですね。

なので、子どもがやりたいと言ったものを

やらせてあげるようにしましょう！

4. ふざけてしまう時の対応

よく習い事でふざけてしまう子どももいます。

それはだいたいお父さんやお母さんが見ている場合に

多いですが、子どもというのは、習い事を見に来てくれると

嬉しさの反面、恥ずかしさや照れくささがあります。

また、嬉しくて興奮状態になってしまう子もいます。

照れ隠しや興奮状態によって、ふざけてしまう子もいますが、

これは子どもであれば仕方のないことでもあります。

これに対して、叱ったりすることは NG です。



子どもは大好きなお父さんやお母さんが
見に来てくれて嬉しくて興奮しているのに、
叱られたら、とっても悲しい気持ちになってしまいますよね。

このような場合には、見に行く前に、

「今日ママ見に行くから、カッコいいところ見せてね！」

と子どもが期待できるように伝えたり、

もしくは、お父さんやお母さんが行くとわかっていることで
ふざけてしまう場合には、何も伝えず見に行くようにするのも
方法かもしれません。

ただ、ふざけることで**先生や友達に迷惑を**

かけてしまっているような場合は、

きちんと注意をすることが大切になります。

「ママ〇〇のかっこいい姿見れると思ってたのに
とってもショックだったよ」と、まずは残念・悲しかった
ママの気持ちを伝えて、
その後に、「〇〇がふざけてて、先生やお友達も
とっても困ってたよ」と周りの人の気持ちや
自分がふざけることで周りに迷惑がかかる、
周りの人たちが困るんだということを
真剣な表情で子どもに伝えていくようにしましょう。

その後に「どうすれば良かったと思う？」と子どもに問いかけ、

今後の行動について一緒に考えることが大切です。

いつもではなく、お父さんやお母さんたちが見に来てくれた時に

ふざけてしまう場合には、照れ隠しや興奮状態から

きているものなので、むやみに叱るのではなく、**子どもの**

気持ちを理解し、受け止めてあげることも大切です。

5. やめたいという場合はやめさせるべきか？

子どもがまだ習い事を始めて数か月で

「やめたい」と言った場合、親としては、

“高い入会費だって払って、衣装だって買ったのに勿体ない・・・”

“せっかくここまで頑張ったのに・・・”

などと思ってしまう方も多いと思います。



でも、やめたいという場合は**無理に続けさせる必要はありません。**

理由にもよりますが、

例えば、友達とトラブルがあった、先生に怒られたなど、

その習い事に対して全く関係ないことが理由であれば、

やめなくても時間が経てば解決していく場合が殆どですので、

子どもの話を聞いて、不安な気持ちを解消してあげ、

少しの間様子を見ていくようにしましょう。

子どもの不安な気持ちや悩みが解消されれば

次第に落ち着いていきます。

しかし、周りのみんなはうまくできているのに

自分だけできないから嫌だ、つまらないといったような

その習い事に関するものであれば、

それはすぐにやめさせるようにしましょう。

なぜなら、その習い事自体が原因の場合、
無理に続けさせてしまうことで、
子どもは劣等感を抱いてしまうようになるからです。

せっかく“やりたい”と思って始めた習い事・
興味のあったことで伸ばしていけるはずのものが、
劣等感を抱いてしまうと、

「自分にはやっぱりできないんだ・・・」

「どうせぼくはできない・・・」このように

自己肯定感まで下げてしまい、さらには自信をなくし、

この習い事だけでなく、他のことに挑戦する

意欲までなくしてしまいます。



なので、その場合は無理に続ける必要はありません。

もし習い事に関わるのが原因であれば、子どもが劣等感を抱いてしまう前にすぐにやめさせてあげてください。

たった数か月だったとしても、子どもにとったらその経験はとても大きいはずですし、たくさん学んだこと・得たものはあるはずです。

費やしたお金や時間は決して無駄にはなっていませんよ！

「せっかく始めたのに・・・」「もったいない・・・」
このような言葉を言うてしまうことで、子どもはやめることに対して後ろめたさが残ってしまいますし、また今後やりたい習い事があっても、気を遣ってしまい素直に言えなくなってしまいます。

なので、子どもが「やめたい」ということに対して

グチグチ言ったりせず、応援してあげるように

してあげてくださいね！

そして、子どもがやりたいといったことを

どんどん経験させてあげてくださいね。